

遺稿

「遺稿」附記

水上瀧太郎

青空文庫

この無題の小説は、泉先生逝去後、机辺の篋きょうてい底ていに、夫人の見出されしものにして、いつ頃書かれしものか、これにて完結のものか、はたまた未完結のものか、今はあきらかにする術すべなきものなり。昭和十四年七月号中央公論掲載の、「縷紅新草るこうしんそう」は、先生の生前発表せられし最後のものにして、その完成につくくされし努力は既に疾やまいを内に潜めいたる先生の肉体をいたむる事深く、その後再び机むかに対われしこと無かりしという。果して然しからばこの無題の小説は「縷紅新草」以前のものとするを至当とすべし。原稿はやや古びたる半紙に筆と墨をもつて書かれたり。紙の古きは大正六年はじめて万年筆を使用されし以前に購あがなわれしものを偶々たまたま引出して用いられしものと覚しく、墨色は未だ新しくしてこの作の近き頃のものたる事を証あかす。主人公の名の糸七は「縷紅新草」のそれとひとしく、点景に赤蜻蛉あかとんぼのあらわるる事もまた相似たり。「どうもこう怠あけていてはしかたが無いから、春になつたら少し稼あごうと思つています。」と先生の私に語られしは昨年あの暮の事なりき。恐らくこの無題の小説は今年のはじめに起稿されしものにはあらざるか。

雑誌社としては無題を迷惑がる事察するにあまりあれど、さりとして他人がみだりに命題すじあいすべき筋すじ合あいにあらざるを以て、強しいてそのまま掲出すべきことを希望せり。

(水上瀧太郎附記)

青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選 泉鏡花集 黒壁」ちくま文庫、筑摩書房

2006（平成18）年10月10日第1刷発行

底本の親本：「鏡花全集 第二十四卷」岩波書店

1940（昭和15）年6月30日

初出：「文藝春秋」

1939（昭和14）年11月号

※「遺稿」冒頭の附記で、表題はありませんが、底本における表題「遺稿」を補い、作品名を「「遺稿」附記」としました。

入力：門田裕志

校正：坂本真一

2017年1月12日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

遺稿

「遺稿」附記

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

著者 水上瀧太郎

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>